

「ままちの丘」に刻んだ思い出は永遠に…

真町中 40年の歴史に幕

沿革

昭和47年 1月 開校式(1年生107人、2年生94人)
昭和50年 2月 講堂(体育館)落成式
昭和62年 4月 向陽台中と分離
(向陽台中271人、真町中228人)
平成3年10月 「ままちの丘公園」開園
平成13年9、10月 開校30周年記念事業
平成23年11月 閉校記念式典、記念碑除幕式
平成24年 3月 第40回卒業式

3月31日、昭和47年の開校以来2,863人の卒業生を送り出した真町中が閉校します。13日に最後の卒業生33人が思い出の学舎から巣立ちます。また、現在の1・2年生は4月から千歳中に転入し、新たな1年を迎えます。

母校への思いを胸に 新たなスタートを

閉校記念事業実行委員会会長
真町中PTA会長
市川 隆志 さん

自宅(本町)の前を通学する生徒たち。私自身と2人の息子の母校が閉校し、毎朝あたりまえに見ていた光景がなくなることは寂しいですね。

この1年間、閉校記念事業として記念誌の作成や式典の開催などを行ってきました。卒業生を中心に集まった約20人の委員と、PTAの方など、たくさんの方の協力に感謝しています。また、事業を通して母校を思う皆さんのつながりを実感しています。

母校への思いや誇りは世代に関係なく、皆さんが持っているものです。真町中は3月で閉校となり

ますが、ひとりひとりの思いが心から消えることはありません。

何年か後に「同窓会」を開き、皆さんで再会できれば良いですね。



ありがとう、真町中学校

真町中3年 向平 卓矢 さん

真町中40年の歴史が、僕たち3年生の卒業とともに幕を閉じようとしています。僕たちは真町中「最後の卒業生」としてこの1年を歩んできました。最後の運動会…最後の学校祭…と、何もかもが「最後」でしたが、むしろそれをバネにして有終の美を飾りたいという意識のもと、日常生活や行事に取り組んできました。人生にたった一度しかない中学校の3年間で最後の卒業生という大きな役割を持って過ごせたことは、とても貴重な経験でした。

真町中が閉校してしまうのはとても悲しいことですが、僕たちがすべきは、母校の閉校を惜しんで立ち止まることなく、むしろその歴史が終わるその瞬間を見届けることができたこと、その当事者であったことに誇りを持ち、自分の道を歩いていくことです。

時間の流れとともに現実に移り変わっていきますが、僕たちが真町中の生徒だったということは永遠に変わらない真実です。

今の僕がいるのは、この学校のおかげです。3年間本当にありがとう、真町中学校。



閉校記念式典での全校合唱(上)と「ままちの丘」の記念碑(左)